

第1号様式(第9条関係)

条例見直し調書

		作成年度	平成27年度	次回見直し予定	平成31年度
条例名	神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例				
条例番号	平成7年神奈川県条例第5号	法規集	第6編第1章第1節		
所管室課	保健福祉局福祉部地域福祉課・県土整備局建築住宅部建築指導課				
条例の概要	障害者等が安心して生活し、自由に移動し、及び社会に参加することができるバリアフリーの街づくりに関し、県、事業者及び県民の責務、県の基本方針並びに施設等を障害者等が安全かつ快適に利用できるよう整備を進めるための整備基準の遵守等の必要事項を定めている。				
検 討	視 点	検 討 内 容			備 考
	必要性 (現在でも必要な条例か。)	本条例は、バリアフリーの街づくりを進めるため、県等の責務や基本方針を定め、施設整備における整備基準の遵守を課すに当たっての基本的な必要事項を定めたものであり、少子高齢化の進行による街づくりの変化やユニバーサルデザインに関する意識の高まり、関係法令(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律等)との関連といった社会状況の変化の中で、現在でも必要である。			
	有効性 (現行の内容で課題が解決できるか。)	ユニバーサルデザインの考え方に基づいたバリアフリーの街づくりを進める上で、施設整備における整備基準の遵守を課する本条例の規定は有効であるが、さらに実効性を確保していくためには、規則で定める整備基準等について、社会状況の変化(対象者の広がり、施設の利用状況、情報化等の技術の進歩、県民意識の変化等)を踏まえ柔軟に対応できるよう、その内容や運用が実態に即したものとなるよう見直す必要がある。			施設整備に関する事前協議件数 H26:640件 H25:624件 H24:543件
	効率性 (現行の内容で効率的といえるか。)	県民の利便性向上のため、事業者や市町村の効率的な事務運営の観点から、条例に基づく事務を特定行政庁に移譲するなど、県・市相互の連携・協力により、効率的に運用している。			
	基本方針適合性 (県政の基本的な方針に適合しているか。)	本条例に基づく施策は、「かながわグランドデザイン」の主要施策の政策分野「健康・福祉」における施策体系「ともに生き支えあう地域社会づくり」に適合している。			
	適法性 (憲法、法令に抵触しないか。)	県民及び事業者の責務や事業者の義務を課すなどの規定を有するが、条例の目的に照らして合理的なものであり、憲法や法令に抵触しないものである。			
	その他				
見直し結果	1 改正・廃止及び運用の改善等の必要はない。 ② 改正・廃止の必要はない。運用の改善等を検討する。 3 改正を検討する。運用の改善等の必要はない。 4 改正及び運用の改善等を検討する。 5 廃止を検討する。	理 由 等 整備基準等をより実態に即した安全で適正な規制とするため、対象施設のさらなる利便性・快適性を確保しつつ、運用の改善等を検討する必要がある。			